



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ加盟各社 御中

令和 5 年 7 月 28 日

岡 山 大 学

遠隔地の希少がん患者と家族をつなぐメタバース運用を開始

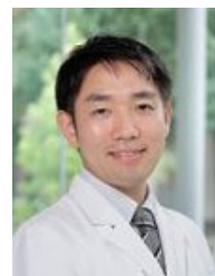
◆発表のポイント

- ・患者さん同士や、患者さんと家族の交流ができるメタバース（仮想空間）を新規に構築した。
- ・メタバースの利用により遠隔地にいる希少がんの患者さん同士が交流できる場を提供していく。
- ・がんサバイバーの方の講演や、妊孕性などのデリケートな話にも有用。

岡山大学病院では、2014年4月に西日本で初となるサルコーマ（肉腫）センターを開設し、診療を行っています。骨にできる悪性骨腫瘍などは、いわゆる「希少がん」であり、しかも小児や思春期・若年成人（Adolescent and Young Adult, AYA）世代に多く発症するため、その精神的なケアが非常に大切です。メンタルケアの為には、同じ疾患を経験している患者さん同士がお互いの悩みなどを話し合える環境が重要ですが、希少疾患のため、入院治療中に同じ疾患かつ、同世代の患者さん同士が話せる機会は殆どなく、孤独な病との闘いが長期に渡っている状態です。また、希少疾患はそこご家族同士の交流の場も少なく、社会生活上の情報交換などが十分には行えていないため、情報交換の場が長年求められてきました。これらの問題を解決するため、岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢准教授（整形外科）は、2023年6月に遠隔地の患者さんやご家族を繋げるメタバースを開発し、空間の公開を開始しました。現在は、遠隔地の患者さん同士の交流を行うために、全国の拠点病院と各診療科との調整を行っており、2023年中には試験運用を開始する予定です。

◆研究者からのひとこと

希少がんの治療は、その患者数が少ないことから、同じ病気で闘っている患者さん同士が交流できる機会が非常に少ないという課題があります。一部で患者会が開催されてはいましたが、現実空間での開催は地域が限定されてしまい、参加が難しいことも課題でした。メタバースを用いることで、遠隔地の患者さん同士を繋ぐことができ、アバターで参加できるため、匿名性も高く、話がしやすいことがメリットなシステムです。連携病院を拡大中であり、がんサバイバーの方のお話や、疾患情報の講演なども企画しています。



長谷井准教授



PRESS RELEASE

■発表内容

岡山大学病院のサルコーマ（肉腫）センターは、希少がん治療に専念してきました。特に骨にできる悪性腫瘍で最も頻度の高い骨肉腫では、小児や若年成人（AYA）世代が大半で、彼らとご家族が情報交換や経験を共有する機会が限られているという課題に直面しています。その解決策として、岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢准教授（整形外科）が新たな手段を導入しました。それが、遠隔地の患者さんやご家族をつなげるための仮想空間、メタバースです。現実の地理的な制約を超越し、自由度の高いデザインで構築されるこの空間によって、入院中の患者さんやご家族が自由に交流することが可能になります。メタバースでは、自然環境の再現や遊具の設置などが可能であり、様々な体験を提供できます。身体的制約がある患者さんや長期入院を余儀なくされる子どもたちにとって、こうした仮想空間での活動は極めて価値のある体験となります。本システムにより、希少がん患者、特に小児・AYA 世代の患者さんへのメンタルケアを提供することが可能になります。メタバースは、治療中の子どもたちがストレスを軽減し、リラックスした状態で他の患者と交流できる場を提供します。患者さんの精神的な健康状態の向上が期待され、治療に対する不安や恐怖心を和らげる効果が期待でき、この空間では、同じ疾患と闘う子どもたちが互いに励まし合い、経験や知識を共有できます。それによって、彼らが自身の病気や治療に対して前向きな態度を持つことが促進され、精神的な負担の軽減が期待されます。

また、このメタバースを通じて、希少がんの家族同士も交流する事が可能になり、地域を問わず、広く情報を共有できるという大きなメリットがあります。また、抗がん剤により、妊孕性に影響が出ることなど、子供たちにはとてもセンシティブな内容の話をする際には、自分がアバターで参加できることで、直接顔を合わせるより、自由に質疑応答ができること効果が期待されます。

2023年6月には専用空間のデザインと空間構築が完了しました。長期入院している患者さんが解放感を感じられるように、自然あふれるデザインとしています。現在は、東北、関東、中部、近畿、中四国の広い地域の基幹病院と連携し、導入を進めています。岡山大学のメタバース利用計画は、これまでにない新たなアプローチとなり、希少がん患者さんとそのご家族のための情報交換や経験共有の新たな可能性を切り開くことを目指しています。





<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院医歯薬学域
医療情報化診療支援技術開発講座
准教授 長谷井 嬢
(電話番号) 086-235-7273
(FAX) 086-223-9727

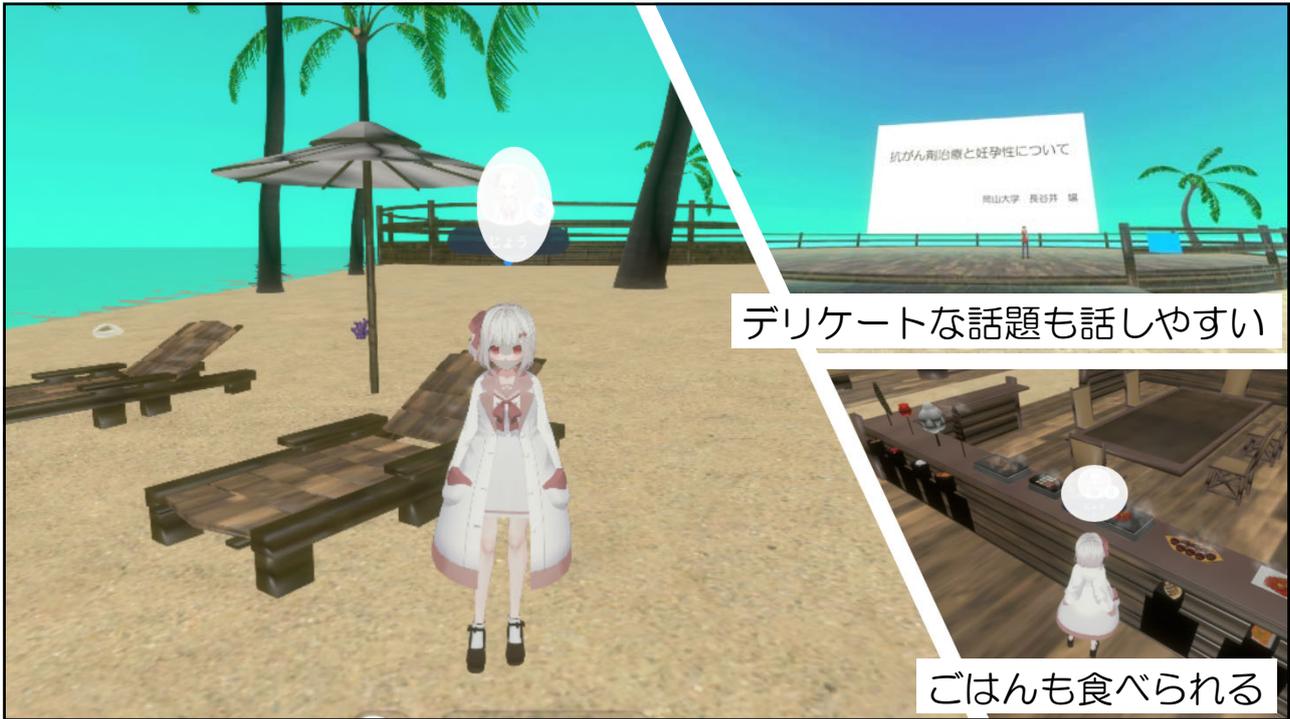


遠隔地の希少がん患者と家族をつなぐ メタバース運用を開始

医療情報化診療支援技術開発講座
長谷井 嬢



自然あふれる環境で交流ができる



骨肉腫などは小児・AYA
世代好発の希少ガン

入院中、同世代・同一疾患の
患者は殆どおらず、
長期に孤独な闘病生活

メタバースで
全国の病院をつなぎ、
話せる機会をつくる

お互いの情報交換が可能となり、
ストレスに対するセルフ
ケアが可能。

ウェルビーイングの向上

全国の拠点病院間で連携していく予定